

令和4年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立都南小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な内容については定着してきている。
- ・ICT機器の活用で、具体物、図や角の大きさなどを用いて考える習慣が身に付いてきた。
- ・選択式の問題の正答率は、目標値に到達している。

(2) 課題

- ・学年により定着度に偏りがある。
- ・「面積」と「分数」と「割合」の正答率が目標値よりも低い。
- ・高学年になるにつれ、記述式の問題の正答率が低くなっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和4年度結果	令和3年度結果	令和2年度結果
第4学年	・目標値を上回っている。	/	/
第5学年	・目標値をやや下回っている。	・目標値を上回っている。 (第4学年時)	/
第6学年	・目標値をやや下回っている。	・目標値を上回っている。 (第5学年時)	・目標値を大きく上回っている。 (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題や小数を読み取る力は付いている。 ・円や三角形などの図形の性質の理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題や、立式等についての説明（記述）することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの学習を生かして、課題を解決しようとする意識が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題や図形について理解している。図形の中の多角形・合同については課題が見られる。 ・小数や分数、概数などの理解に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題や、領域「変化と関係」について説明（記述）すること、表やグラフの読み取りに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことや既習事項を活用し、生活に結び付けて考えたり、応用したりすることに課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 半具体物を操作する活動を継続して取り入れていく。 時計や長さなどの学習では、普段でも意識的に児童と確認し、日常でも使えるようにする。 タブレットのドリルなど、継続的な取り組みを行い、苦手な部分はドリルパーク等を用いて、10の合成や九九の確実な定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を繰り返し読み、言葉の意味、分かっていること、知りたいことを、はっきりさせてから問題に取り組ませる。 説明する場面をつくり、自分の考えとの違いを見付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物やICT教育機器で場면을想起できるようにする。 対話の場面において、学び合い、伝え合い、分かる楽しさを味わわせる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 半具体物を操作する活動を継続して取り入れる。 算数用語一つ一つを丁寧に扱い、説明できるようにする。 四則計算に継続的に取り組み、苦手な部分はタブレットのドリルやドリルパーク等を用いたり、個別指導をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を正確に読み取り、言葉の意味、分かっていること、知りたいことを明確にさせ、図や表に表してから立式させる。 問題を解決するための方法を話し合わせ、友達の考えの良いところや自分の考えと同じ部分を見付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物やICT教育機器で場면을想起し、解決の見通しがもてるようにする。 対話の場面から、学び合い、考えを視覚化して、友達の考えを知る機会をつくる。 授業のまとめの場面で学習感想を書かせ、「学んだこと」「今後に生かすこと」の2点を振り返らせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 算数用語を使って説明する機会を多く設ける。 四則計算に継続的に取り組み、苦手な部分はタブレットのドリルやドリルパーク等を用いたり、個別指導をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を正確に読み取り、言葉の意味、分かっていること、知りたいことを明確にさせ、図や表に表してから立式させる。 分かりやすく自分の考えを説明できるようにさせ、友達との対話から、より良い方法を見付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体物やICT教育機器で場면을想起し、解決の見通しを複数もてるようにする。 対話の場面から、学び合い、考えを視覚化して、友達の考えと比較しながら多様な解き方を工夫する習慣をつける。 授業のまとめの場面で学習感想を書かせ、「学んだこと」「今後に生かすこと」の2点を振り返らせる。

